

国産材の適時適量供給へ最新鋭機

佐藤製材所

製材機のソフト向上、IOT活用進む

佐藤製材所(大分県日田市、佐藤貴之社長)が、キクカワエンタープライズ(三重県伊勢市、菊川厚社長)のクリアシステム改良型第1号を導入した。製材機で側材の付加価値を最大にししながら、芯出しもしっかり行える高速ノーマンラインで、松4材×105、角土台なら1日3000本以上の生産能力になる。また、製材ラインのソフト向上、IOT化が進められ、複数のカメラによるインターネット経由でのモニタリング、遠隔対応を可能にした。

佐藤製材所は松専門の製材メーカーで、同分野では全国最大手の一角になる。直近の原木消費量は年間7万立方メートル前後。メインライズは3台に分割されているが、今回はそのうち1台を新機に入れ替えた。同社は従来から品質、歩留まりを重視した製材を行っており、「当社は従来から品質、歩留まりを重視した製材を行っており、「当社は従来から品質、歩留まりを重視した製材を行っており、」

日刊木材新聞

発行所 日刊木材新聞社
〒135-0041 東京都江東区冬木2-3-4
編集・営業 ☎03-3820-3500
FAX03-3820-3519
総務・販売 ☎03-3820-3511
FAX03-3820-3518
http://www.n-mokuzai.com/
e-mail info@n-mokuzai.com
購読料 1ヵ月 6,200円

©日刊木材新聞社 2017
本紙の無断複製(コピー・PDF)配布は、著作権の侵害にあたり違法です。

木が拓く
新たな未来

木材建報ウィワリー
Japan Lumber Reports

総合床工事

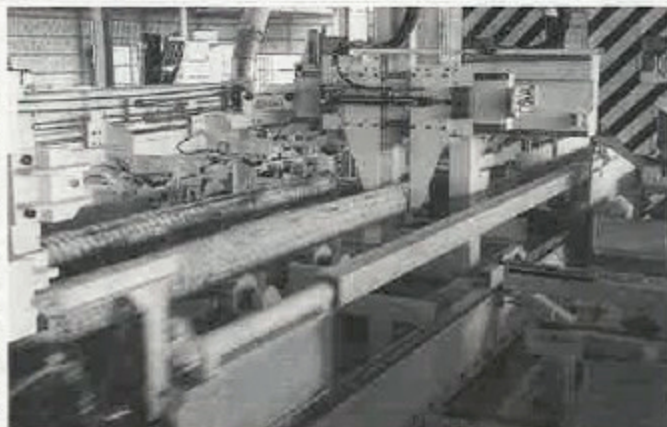
フローリング
新建材

マルコー(株)に
御用金下さい

江東区新木場1-9-6
TEL (3521)0505
FAX (3521)0931

主な記事

- ▽3面 九州商況 一部製品で品薄続く
- ▽4面 東北商況 新築需要は厳しい
- ▽5面 夢の島公園 東京五輪への施設整備進む
- ▽6面 挑戦する販売店 酒井材木店(埼玉)
- ▽7面 3月大阪木材商況 集成平角値上げに動き



丸太を2度計測して付加価値を高めながら、製材スピードも日本最速を出している

が、労働環境の改善などを含め様々な要望に対応して開発してもらった」(佐藤社長)。

改良型1号機は製材スピードも日本最速と見られる。3月後半から開始した試運転で、松4材丸太の製材サイクルタイムが37秒台を出している。既存の帯鋸を使用しているものの、ハード面では軽量化、簡素化を進めるとともに、ソフト面でも

丸太の状況次第で付加価値の高さを優先する。遠隔管理システムでは、機械メーカーが遠隔からトラブル対応、木取りのプログラム変更などもできる。「製材機へのIOT活用は今後も大きな広がりが見込めると考えている」(キクカワエンタープライズ)。

丸太径級の挽き幅に応じて切削速度を細かく変えるなどの技術が投入されている。

側材の付加価値を最大化するため、製材ラインに乗った丸太は2度の計測が行われる。木取りは側材が角材の上下左右で対象になることはほとんどなく、丸太の状況次第で付加価値の高さを優先する。遠隔管理システムでは、機械メーカーが遠隔からトラブル対応、木取りのプログラム変更などもできる。

集成材

FSC SGEC
SGEC/31-1007
FSC® C121389 「緑の選択」

お問い合わせ下さい

TSC株式会社 ティ・エス・シー
〒292-0838 千葉県木更津市潮浜2-1-53
TEL/0438-37-0206 FAX/0438-37-2349
ホームページ http://www.syusei-tsc.com

「今後、国産材メーカーが取引先からの信用を得ていくには、いわゆる安定供給ではなく、顧客が必要とする繁忙期などに対応した供給が必要だ」(佐藤社長)。

同社も新ラインで繁忙期にフル生産を行えば、原木消費量は年間8万立方メートル前後まで拡大する見通しだ。

また、「地域の国産材業界は今後、チーム国産材で行かなければ需要を拡大していくことはできないと考えている。今回のライン開発がそれに少しでも寄与できれば」(同)と語る。